

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1270101619		
法人名	有限会社 ハーモニー		
事業所名	グループホーム ハーモニーそが		
所在地	千葉市中央区蘇我4-22-11		
自己評価作成日	26年3月3日	評価結果市町村受理日	平成26年4月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 日本高齢者介護協会		
所在地	東京都世田谷区弦巻5-1-33-602		
訪問調査日	平成26年3月11日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者が、自分の意志で決定し、行動出来る様に、見守りをし、支援をしている事。 音楽を利用したりハビリ体操。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

比較的新しい造成地に専用に建てられた平屋建てのホームで、周りの住宅街にすっかり溶け込んでいます。内部は居室、共用部分共にゆったりとした造りで、居間兼食堂とトイレには天窓があり、天井から自然光が採り入れられています。居室はホールと一体となった居間兼食堂を取り込む形で配されていて、調理場からも全体が見渡せます。 入浴は週2回が原則のグループホームが多い中で週3回を基本とし、ラジオ体操・リハビリ体操、天候の許す限り近くの公園や土手への30分を超える散歩、内科医による月2回の訪問診療と24時間対応、歯科医の月2回及び必要なら随時の訪問、皮膚科医の随時の往診等の体制を整え、手厚いケアで健康や残存機能の維持に努めています。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	昨年5月(経営交代)以降から勤務している職員には、浸透しているが、最近採用の一部職員には浸透せず。	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所の理念を重要事項説明書に記載し、入居希望者・家族に説明しています。しかし、職員の間で十分共有されているようには見えません。	理念をホーム内に掲示する、職員で唱和する、ミーティングの際に皆で確認し合う等、何等かの方法で全職員が共有し、ケアの中で実践していくことが期待されます。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事には積極的に参加している。クリスマス会等、イベントの時は、近隣世帯に声かけし参加を呼びかけている。	町内会による川の清掃活動に職員が参加したり、回覧版を回したり、班内の人達とは親しく挨拶したりしています。ホームのクリスマス会には歌や踊りのボランティアが来て盛り上げてくれ、隣家の参加も予定されましたが急用の為来られず、代わりに菓子の差し入れがありました。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域内の道路をよく利用者と散歩するが、住民の皆さんとあった時は、認知症の利用者をお預かりしている事をお話して理解や支援のお願いをしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の状況についての話し合いは出来ている。サービス評価への取り組みが、今一歩。	経営者の交代で会議を開催する余裕がありませんでしたが、漸く体制も整ってきたので、近々地域包括支援センター職員の参加を得て開催する予定です。	年6回以上の開催が望ましいとされているので、民生委員や地域の方も加えて回数を増やして行き、それぞれ専門家としての立場からアドバイスを受ける事が期待されます。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	機会ある事に、千葉市の高齢施設課の担当者には、現状を説明して、理解をお願いしている。	市の高齢施設課や区の社会援護課とは、報告事項や相談事がある度に連絡を取っています。今後地域包括支援センターから運営推進会議に出席して貰えるので、協力関係が一層進むものと思われます。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は、原則的にしない様になっています。緊急事態、非常事態のときは、施錠もありうる。	玄関は原則日中施錠せず、職員は見守りに徹し、外出の気配があれば、暫く一緒について出たり、気持ちを他にそらすように工夫しています。管理者が身体拘束についての県の研修会に参加し、職員にミーティング時に話していますが、禁止の対象となる具体的な行為を、全職員が正しく理解しているとは言えません。	身体拘束を完全に排除する為には、全職員が禁止の対象となる具体的な行為を熟知している必要があるため、虐待防止とあわせて、緻密な指導・研修の実施が望まれます。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	十分に注意をしている。虐待は、今まで一度も、起きていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	NPO等の関係団体とは、十分に連絡を取り、利用者の将来について相談し、極力受け入れている。ただ権利擁護制度については、職員の理解は今一歩。今後学ぶ機会を、持ちたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書の、概要については、説明をして、理解納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	イベントのある時等、あらゆる機会を、使って家族利用者の意見を、聞くように努めている。	利用者については、希望を表せる人には直接意見を聞き、表せない人は日々の介助の中で把握するようにしています。家族については、面会やホームの行事に参加する為の来訪時、介護計画作成の際に聞くようにしています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティング、業務終了後等に、いつでも意見が、聞けるようにしている。	毎月定例的に開催するミーティング及びケアプラン作成時に職員は積極的に意見を出しています。出された意見は皆で話し合っ実施するかどうか決めるようにしていますが、職員の中には言っても取り上げてもらえないと悩む者もあります。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	グループホームは、本来職員が、利用者に合わせた食事を提供すべきであるが、月、水、金の入浴日は、賄いを雇い、職員の負担軽減している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各種研修会を積極的に受講する様、努めているが、職場内研修(OJT)が、少ないと感じる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修参加時、同業他社の職員と意見交換する機会を持つようにしているが、相互訪問等、ネットワーク作りが、欠けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に、必ず一度ケアマネによる面談を行い本人の経歴、趣味、嗜好を聞きとり入所時、極力本人に安心していただける様に、雰囲気作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前における家族の施設見学で、これまでの生活状態、生活習慣、食生活を丹念に聞き取り、家族の思い、要望を聞きとるように、努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	長い期間、独居生活を余儀なくされた利用者が多いため、まず、衣食住のサービスと、入浴、整容のサービスを提供し、安心していただいた。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者にも、出来ることは、一緒にやっただき、役割分担を理解していただき、共に生活していることを、理解していただいている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の問題行動は、家族にも正直に伝え、共に考え試行錯誤しながら、より適切な対応ができる様に、努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	特に入所時は、注意を払って、意識的にその環境を作っている。入所後も一定期間経過したら、途切れないようにして、行きたい。	家族と共に墓参りに行ったり、友人が訪ねてくることもあります。家族が高齢で一人では面会に来られない場合、職員が送り迎えするなど、家族や懐かしい場所との関係を大切にした支援をしています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士、気の合う人と、合わない人がある。職員が、間に入り、時間をかけて、共に生活していることを、理解出来るまで、支える。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	時々街中や、スーパー等で、元の利用者の家族と会う事がある。そんな時本人がどうしているか、引きつつ'き思いを馳せ、経過のフォローを、している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人一人の思いや、暮らし方の意向や、希望が違う。出来るだけ本人の意向に沿うよう、職員が考え、工夫をしている。	職員は日々の表情や、生活歴・趣味など様々な角度から利用者を見つめてどのように暮らしたいかを汲み取る努力をしています。労働したい・体を動かしたい・計算が得意・畑仕事が好きなど一人ひとりの思いや意向を把握し、その思いや意向に沿った支援に努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	時々街中や、スーパー等で、元の利用者の家族と会う事がある。そんな時本人がどうしているか、引きつつ'き思いを馳せ、経過のフォローを、している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケアマネを中心に、利用者一人一人の残された力、一日のより良い過ごし方を考え、いろいろ試している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族、医療関係者と、連携を取り、都度相談しながら、意見を出し合い、支援の計画を作っている。	入居時に本人・家族から生活歴や既往症・生活についての意向などを聞き取り、記録をもとに暫定の介護計画を作成します。その後1～2ヶ月利用者の様子を見て職員全員で意見を出し合い、本プランを作成します。計画は定期的に見直す他、毎月モニタリングを行い、変化が有れば随時見直しをしています	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録は、一時間毎に、記録して、本人の生活の様子が分かるようにしている。気づきや、工夫は、申し送り帳で、他の職員に、申し送っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	認知症の他に、種々の身体的障害を、持った利用者が多いため、リハビリを目的として、音楽を利用した、リハビリ体操を、午前、午後一回づつ行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	当ホームは、閑静な新興住宅街にあるため、よく5～6名の利用者と職員で、散歩を行う。車の往来が、極めて少なく、安心してゆっくりと散歩出来る環境がある。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	当ホームは、定期的に内科の訪問診療が入っているが、それとは別に、利用者自身がかかっていた医師にも、受診出来る様にして、適切な医療を受けられる様に支援している。	月2回の内科医・歯科医の訪問診療と皮膚科の医師が随時往診に来るなど適切な医療が受けられるよう支援しています。入居前からのかかりつけ医を受診する人は家族が対応しています。精神科や整形外科などの専門医受診は主に管理者が対応しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	提携の医療機関の看護師と密に連絡をとり、情報の共有をはかっている。緊急時に適切な受診が出来る様、支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	かかりつけの医療機関には、定期的受診を勧め最近の情報を持つように支援している。又医療機関の関係者とも日頃の関係づくりに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医師からの要請もあり、重度化した場合の、高度医療希望の有無、終末期の在り方を家族と話し合っている。	終末期については家族と話し合いを持っていますが、書面での確認はしていません。医師から重度化・終末期に向けての方針を示すよう勧められており、看取りの体制が取れるよう取り組みを始めるところです。	現在は、利用者に医療行為が必要になり入院で退去となっています。今後は看取りを視野に入れた本人・家族との話し合いを重ね、終末期に向けての体制作りが望まれます
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変や事故等の緊急時は、まず提携の医療機関に、電話で状態を説明し、その指示を仰ぐが、要領を得た電話のかけ方を、訓練し適切な初期対応の実践力を、身に付けさせたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	利用者が安全に避難できる方法を、職員で話し合い、又消防署と連携し避難訓練を実施したい。	消防署への自動通報装置は設置済みですが、スプリンクラーは義務付けられていない為未設置で近々設置の予定です。避難訓練は十分に行えていません。飲食料の備蓄は3日分程度です。	様々な場所・時間での火災発生を想定し、優先対応手順を全職員で話し合っって覚え込んでおくこと、震度6強の大地震に備え、長期停電も想定し、備蓄の内容と数量の見直しを続けることが望まれます。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者は、人生の先輩である事を念頭に置いて人格を尊重し誇りを傷つけない様に、配慮した支援をしている。	利用者一人ひとりの時間の流れを大切に、職員のペースで動かず、家庭的な雰囲気の中で利用者の人格を尊重することを心がけています。排泄や入浴時の羞恥心にも配慮しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活は、極力本人の自由な意思と活動が出来る様に、見守り支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の採用に際しては、グループホームの特性を十分説明し、利用者のペースに合わせた見守り、支援に重点を置くように、指導している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	二か月一回の、訪問美容を入れる事により、利用者の前向きな気持ちを引き出すきっかけにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	たまには、利用者と一緒に、夕食のメニューを考える事もしている。一度インスタントラーメン食べたいとの、意見が出て、職員も一緒に全員で、食べた事もある。	ゴマをするなどの調理の下ごしらえやテーブルをふく、配下膳などできることを見つけて手伝ってもらっています。庭では小松菜やブロッコリーなどの野菜を育て、食卓に上ることで会話が弾みます。3ヶ月に1回程度外食したり、おやつを職員と一緒に作るなど食べることを楽しめるよう支援しています	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	訪問診療の医師の指示もあり、カロリーの摂取量の制限や、体重の管理に、注意を払って、利用者に応じた見守り、支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	出来るだけ自立して貰う為、一人でやっていただくが、歯科医の指導に沿う様に支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	オムツは極力使用しないで、必要最低限度で使用するように努め、本人の排泄パターンを確立させ、トイレが自立出来るように、支援している。	排泄チェックシートで排泄のパターンを把握し、尿意のない人のトイレ誘導のタイミング、声かけ、尿量の多い人の排泄用品の工夫など個別に対応し、排泄にストレスを感じず、状態が改善するよう支援しています	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状態を正確に記録して、問題あるときは、水分量の調整、マグミット錠の調整を職員間で、共有しその後の経過を観察する。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	現状では月、水、金と週三日に決めている。今後曜日を決めず出来るか、検討したい。	利用者は週3回の入浴を楽しみにしています。天気のよい日には外出を優先する場合もあり、入浴の曜日を柔軟にすることを検討中です。入浴しない日は足浴を行い、体調が悪いときには清拭で清潔を保っています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の生活習慣、体調に合わせて、個室で休んでいただいたり、リビングで、居眠りしたり、本人の体調に合わせた、支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬シートを利用して、氏名、日付、の確認をして薬を間違えない様にしている。又薬の目的、症状の変化の、把握に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の生活歴、持っている力を生かすように、役割持たせているが、十分な気分転換になっていない。更に工夫の余地あり。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外の天気の良い日は、集団で極力外出するようにしている。又一人で帰る願望が出る時は、職員がついて、住宅街を一周する事もある。	閑静な住宅街に位置しゆっくり散歩をするのにより環境です。天気のよい日には職員2～3名、利用者5～6名で公園や土手を30分くらい散歩しています。桜の季節には弁当持参で花見に出かけたり、ショッピングセンターでの買い物や外食などを支援しています	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持たせる事は、経済的な問題も発生し、難しいが、小銭は、持たせている。外出した際、使う利用者もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望がある時は、家族に連絡を取れる様に、している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は、常に清潔に、快適に過ごせるよう、生活環境の維持に努めている。季節感を出すような工夫も、若い職員を中心に、企画している。	玄関、廊下、トイレ、居間兼食堂と一体となったホール共に全般的に広く、ゆったり感があり、調理場からは玄関と事務室を除き居室を含め全体が見渡せる造りになっています。居間兼食堂とトイレには天窓があり、天井から自然光が射しており、イベント時の利用者の笑顔あふれる写真や利用者が職員と一緒に作った季節の花の作品が飾られています。居心地が良いのか殆どの利用者が日中居間兼食堂で過ごしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール等の空間を作り、物を置かない様、工夫している。ただ、一人でも、気の合った利用者同士の居場所がある様にする為、ソファを置いてある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、本人の使い慣れた物は配置してもよく、ただ車椅子の移動に、支障の無いよう、清潔感を確保出来れば、自由に使用していただいている。	居室は7.5畳ほどの広さがあり、クローゼットとベッドが備え付けなので、整理が行き届いています。全般的に簡素な部屋が多いようですが、机や椅子等馴染みの物を持ち込み、居心地良く過ごせるよう配慮されています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホール等の空間を、多く作り、安全で快適に過ごせる様に、配慮している。これにより、出来ることは自分でするスペースが出来る。		